

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501271), 法人名 (医療法人社団 上田病院), 事業所名 (グループホーム あいあい 桜ユニット), 所在地 (登別市美園町4丁目23番地9), 自己評価作成日 (令和3年10月31日), 評価結果市町村受理日 (令和4年3月3日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設15年が経ちたくさんの入居者様と生活を共にして来ましたが、あいあいは地域に根付いたグループホームであると感じます。立地条件もあるとは思いますが、「あいあい」は行き来がしやすいと伺います。入居する皆さんは美園・新生・鶯別地域の方が多く入っています。ご家族も高齢の世帯が多くなり、地域に密着した支援の大切さを実感しています。2年近くコロナ禍の為外部の方との関りができない状況ではありますが、町内会の方々もいつもあいあいを気にかけて下さり有難く思います。運営推進会議は隔月に実施し書面での報告となりますが継続して行っています。町会と合同で行う行事には参加ができない状況ですが、あいあいでは運動会やお茶会など楽しめる工夫をしています。面会はリモート面会を積極的に取り入れています。毎月10件程度実施しています。電話の取次や窓越しでの面会も合わせて実施しています。ご本人から会えない寂しさの訴えはほとんどないですが、反対にご家族からの要望は多くあります。可能な限り対応をさせて頂いています。母体が医療法人であることで対応が早く、ご家族も安心して様子です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173501271-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月30日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、登別市の中心を走る中央通りに程近く、JR鶯別駅やスーパー等の交通、買い物に便利な住宅街に位置している。敷地は広く、大きな菜園があり、通例では利用者の日常的な外気浴の機会、野菜作りから収穫、調理までの楽しみが得られている。職員は、明るく真摯な対応に努め、主に母体医療法人による合同研修プログラムで、資質向上の研鑽に励んでいる。利用者には、今まで出来たことが出来なくなる等、生活上の行為などで失敗しても自尊心が傷つかないよう、その時々身体状況、気分を把握して生活場面に参加してもらい、意欲に繋げるよう努めている。また、家族にはコロナ禍で訪問が困難な事業所の様子を、リモート面会を積極的に取り入れたり、毎月ホーム便りを発行し、写真と共に日常生活や健康面でのコメントなどを、事細かに伝えている。家族は介護の手厚さ、丁寧な対応、迅速な連絡・報告、行事、食事への気遣い等、配慮ある支援に満足と好感を示している。今後も高齢化が進む地域での福祉情報発信等、更なる活躍が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user satisfaction metrics.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念・ユニットの理念について職員が共有し、入居者様各々が生活の質を維持向上できるように努めている	事業所理念を基に、ユニットごとにわかりやすい理念・目標を作成、掲示する事で日常的に振り返り、理念の実現に向けて職員間で共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、情報共有を行いながら、地域に密着した運営を心掛け、町会との行き来を大切にしている	地域交流を念頭に、積極的に町内活動や行事等に参加している。コロナ禍においても、関係が途切れないよう、お便り、推進会議録等でホームの近況を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で往来する行事には参加できないですが、あいあいの情報は町会へ書面や電話で報告をしている 町内会の高齢者の情報もやりとりをしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面でのやりとりとなっている 身体拘束・虐待廃止委員会も運営推進会議と一緒に行情報を開示している	通例では、管理者を中心に家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。今年度は書面での開催となっているが、運営状況やヒヤリハット・事故まで論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことや、報告などこまめに実施している コロナ禍では感染予防の観点から、玄関の施錠などについても市役所へ相談し実施をした	行政からは主に運営推進会議や窓口で、助言、指導を得ている。その他、地域高齢者についても情報交換を行い、良好な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待について毎月ユニット会議の中で、事例検討を行い、多様な事例をもとに改善策などを話し合っている また毎回レポートにまとめて提出している 日頃のケアにおける課題を抽出し早期発見早期検討へ取り組んでいる	身体拘束・虐待廃止委員会を設置し、定例の運営推進会議と合わせて開催、内容について全職員に周知している。不適切なケアについて、具体的な事例を挙げながら繰り返す事のないよう職員間で協議し、結果を運営推進会議において報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の勉強会を実施し、職員を交えてさらに理解を深め、未然に防ぐことができるように日々話す場を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度の利用者はいませんが状況により活用ができるように勉強会をおこなっていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては時間をしっかりとって十分な理解が得られるように努めている 事前にお知らせすべき要点をまとめて用意しており、再度チェックするようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でご家族などがホームに集まることはできないが、電話や短い面談で話す機会をできるだけ用意している	定例でホームだよりを送付し、写真を交えて生活状況、体調面等を伝えている。また、コロナ禍の工夫として、状況に応じた面会方法の設定や、電話・手紙で意見の聴取に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々のミーティングの際に都度反映させている	月例のユニット会議の場で、運営に関わる課題を協議し、職員意見を反映した業務運営に努めている。また、定期的に個別面談を行い、個々のユニット理念の達成具合を見直す機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や状況を把握し面談を適宜行いながら仕事内容、役割、環境調整、勤務調整などに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に業務内容を精査し勉強会や会議の場で検討を行い、考える幅が拡充するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との交流はない リモートでの講習受講は行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談を重ね、困っていることや心配なことなどを聞き取り、言葉から探り、また例題等を提示しわかりやすく説明をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談を重ねて生活、親子関係他プライバシーに関することを伺うことになるので配慮しながら安心して頂けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初からすぐにサービスが開始されるように情報収集を行い、支援の内容を具体的に抽出しておくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを大切に踏み込み過ぎず、互いに歩み寄ることのできる関係性を築けるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や周囲の関係者と相協力しつつ、共に支える関係づくりに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から生活歴中心に情報を収集し今までの関係性が維持できるような環境づくりを意識している	通例では家族、知人が来訪した際には、居室で寛いで過ごせるようにしている。馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て想いに添える様、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性など見極め、互いに共助の関係づくりができるような環境づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、その後の入退院時などに必要に応じて連絡をとり円滑に経過するようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り意向に沿って支援をしている 困難な場合は家族や、他の支援者からの情報を共有し、多方面からの可能性を視野に入れて検討している	利用者、家族の意向や要望の聞き取りに注力し、職員間で申し送りや会議の場で協議しながら、可能な限り応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好むこと、嫌な事、これまでのサービスも決めつけることなく、本位であるかどうか、見極めるように		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の自立を考え、できること、出来ないことをしっかりと見極め、時には頼りたい思いや甘えたい思いなどを大切に関係づくりに努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族の意向と実情とはズレのある場合があるので、よりよい妥協点を考え納得した介護計画となるように努めている	日々のモニタリングを基に、全職員の視点で課題評価を行い、状況変化時には都度見直している。毎月のスタッフ会議で本人と家族、医療機関の意見を踏まえて検討し、計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には本人の言葉、行動、表情などできるだけ記録し、ケアの改善や見直しに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望や要望に対して、可能な限り沿えるように話し合い、実践に向けて取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との関りは難しい状況ではありますが、町会へは定期的に運営推進会議の資料を提出し、情報開示をしています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍で本人受診が難しい時期もありましたが、状況に合わせて受診し検査や情報を伝えるようにしている	本人、家族の意向を聞き取り、かかりつけ医への受診を原則とし、通院時には職員同行で支援している。個別に医療記録を作成し、医師、看護師からの助言と共に家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の訪問看護では、日々の入居者様の様子を共有し、適切な看護、医師への情報伝達ができるように協力している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院にあたっては直後に医療相談室と連絡を取り合い情報共有をおこなっている ご家族とも情報を共有し退院に向けての相談を行い安心できるように支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については入居後3ヶ月頃に、一度ご家族、ご本人に伺い書面に残します その後重度化した場合に適宜現状の考えを伺い、ホームとしてできることを説明する機会をもっている	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、母体医療法人を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や救急対応は多く、シミュレーションや日々のミーティングで話し合う場を設け、優先順位や応急手当、初期対応について共有している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月シミュレーションの時間をつくり、訓練し実際の事故の情報に合わせて適宜はなしあっている 年2回の避難訓練や地震の訓練などを継続している	年2回の火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域町内会との相互の協力体制の確認、備蓄品の整備を行い、毎月様々なシミュレーション不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや、対応方法については常日頃から話し合っている 接遇の観点、個別ケア、プライバシー保護、虐待には特に毎日のように話し合っている	職員は法人の基本方針を基に、主に接遇・介護姿勢の具体例を挙げながら日々注意し、相互にチェックすることで、尊厳ある対応となるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアを重視しできることを見極め、自己決定ができるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは個性があり、自己決定の中ですすめるようにしている 自分で時間を調整できない方は、誘導や都度選択ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面ではヘアブラシなどさりげなく用意し自分の意志で整髪ができるようにしている 一緒に衣服を選びながらおしゃれを感じられるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いや食べず嫌いなどもあり、食が進まないことや、理解ができない場合など個別にありますが、できるだけ自分の意思で決定し、活躍できりようになっている	嗜好の聞き取りに注力している。調理や盛り付け、下膳、テーブル拭き等、体調や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自宅での習慣や今までの食生活を理解し時間帯や量などを加減しバランスよく摂れるように見極めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入歯の洗浄・消毒の支援と、自歯のある方への口腔ケア(マッサージ)を行っている 不具合は早期に発見し、歯科受診をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔や失禁の有無など個別で評価し対応している 尿意便意を確認しながら、清潔保持とそれぞれの自立に向けて考え支援している	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。排泄時の羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動等精査し、個別に対応している 食材の工夫、PT介入による生活リハビリの継続をすすめている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活歴を見極め、気分良く入浴ができるように工夫している 本人の希望を伺いながら入れるように支援している	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助や時間帯も利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムはバラバラなので個々の状況に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状に合わせて用途に合わせて理解ができるように、一覧表を用意し確認しながら服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、得意分野を理解し、個別に活躍ができるように場面を提供している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍であり実現はできないが、近づけるように電話の取次ぎ、窓越し面会、リモート面会等積極的に行っている ベランダ菜園では手入れや、収穫を楽しみました	通例では、全体行事の他、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物に出かけている。コロナ禍でも閉じこもらない介護を検討し、出来る事から実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金に執着したり、家族の希望もないので所持している方も少額です 必要に応じて公衆電話を使ったりとできる範囲で対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する方は手紙を書き、切手を貼って投函し、返信に喜ぶ姿があります		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース、温度や明るさ、時刻による光の具合などに配慮し、窓のカーテンを開放して季節の移り変わりを感じられるように支援している	共用部は食事や活動のスペース、一方はソファを配置した寛ぎのスペースと、メリハリのある生活空間になっている。ホーム内は清掃が行き届き、利用者や職員の手による季節感ある作品なども飾られ、心地良く過ごせる家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は大まか決まっているので、自分の居場所に認識具合が確認できます ゆっくり安心して居場所を認識したり、他者に座られ混乱したりと様々な場面があります 早めの対応や、状況次第で場を提供している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からは馴染みの調度品や写真、家具などを持ち込み、安心できるように配慮をしている 家族にも入居時にお願いしている	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族関係の写真等を飾り、心身の状況に合わせた平安な生活環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に導線を考え、生活リハビリが継続的に実践できるような環境作りと、支援方法を考えられている		